森林整備Ⅰ

森づくり、里山づくり（理論と実習）

日時：平成２４年１０月７日（日）　１０：００～１５：００

講師：林　進（岐阜大学名誉教授・雑木林研究会会長）

概況

○森は生きものであり、衰弱する木や枯れる木もある。人間にとって元気の出る森とは「健康な森」である。近年、各地で「森の健康診断」が実施されているが、良い傾向だと思う。

○森づくりには、「明るい森をつくる」等の大きな目的を持ち、作業自体は森の変化に合わせて行うことが大切である。具体的には、作業を行い、それにより変化した森の状況に合わせて次の作業を計画していくことになる。

○森づくりを行う際には、どういう森をつくるかという方針は、森の様子を観察した上で決定し、計画する。また、作業時には、森の状態や様子の変化などをよく見て、作業を行うべきかを現場でもう一度判断する必要がある。そして、作業後には反省を行う。

○森に関わる原則は「弱点消去法式」である。その森の弱点を見出すのが診断であり、森づくりとは弱点を取り除き、森の中で良い部分を見つけ出してそれを補うだけである。

○森づくりを実施する際に大切なこと
①樹高成長は土壌の豊かさによって決まる
②太さは森の樹木（立木（りゅうぼく））密度によって決まる
③種の数を見る（種の数は多様性を示す指標である）

○森の手入れでは必ず種数の変化を見る。種数が多いほうが森が安定しやすいためである。森づくりを実施する前に種数を調べ（外来種確認も行う）、手入れ時の種数の変化を記録する。

○最近の森づくりは、市民活動として実施されることが多い。市民活動の利点：①ノルマや義務がない②無理のないペースで活動できる③森林状況の記録が残せる④記録に基づいた計画を立てられる⑤様々な人がそれぞれの得意分野を活かして活動できる。

フィールドワーク（現場での実習）
○森づくりで考えること
①森の階層を見て、階層ごとの違いを知る
②最も大切なことは 4 階層を守ること（高木、低木、下層など）
③木を選抜するとき、水平にみること
④切る木の本数を決める
⑤木の切り方を考える
○森の視点で考える
森を「働き」として見る、または、森を構造（高さで分ける）として見る。

手入れ時の重要事項は以下のとおり。
①本数
②枝下高
③枝張り
④枯木や倒木を確認する→どんな木が枯れているか
⑤樹種や原因（病害虫等）を調べる

大切なことは「まず、森を診断すること」である。